

神戸大学大学院海事科学研究科の紹介

1. 海事科学研究科の教育研究の理念

海事科学研究科は、国際的で多様な視点と問題解決能力を持つ創造性豊かな研究者・教育者・高度専門職業人を育成するために、国際的に卓越した教育の提供と優れた研究の推進を基本理念としています。本理念に基づき、海事科学専攻に、航海学、海洋ガバナンス、海洋基礎科学、海洋応用科学の4つのコースを配置し、高度な専門教育の教授と先端研究活動を展開します。これらの教育研究を通じて、海事・海洋に関連する社会・産業分野の発展および世界平和や地球環境の保全に貢献する優秀な人材を育成し、科学の探求や新たな技術の創出に尽力します。

2. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

海事科学研究科博士課程前期課程では、航海学、海洋ガバナンス、海洋基礎科学、海洋応用科学の各コースにおいて、海事・海洋に対する深い理解を育むと共に、国際性、人間性、創造性並びに専門性豊かな指導的人材の養成を目的にしています。そのために、次のような学生を求めています。

●海事科学研究科博士課程前期課程の求める学生像

1. 各コースでの学びに必要な基礎学力、コミュニケーション能力、科学的論理的な思考能力をもつ人
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
2. 専門知識の展開によって海事・海洋に関連する社会・産業分野や国際活動などへの貢献に強い意欲をもつ人
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、海事科学研究科博士課程前期課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

一般入試、推薦入試、社会人特別入試および外国人留学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

3. 海事科学専攻の内容

海事科学専攻では、つぎの4つのコースで教育研究を行っています。

（1）航海学コース

経済活動を停滞させない安定な海上輸送を地球規模で実現するために、科学技術的手法の創出によって、「船・ひと・環境・社会」連関システムの管理運営と船舶運航に関する技術革新を図り、海事・海洋分野の諸課題の解決のための、社会科学及び理工学に基づいた航海学分野の専門的知識及び学力を身につけることができるよう、教育研究を行います。

（2）海洋ガバナンスコース

国際物流・サプライチェーンの効果的運用と高度化、及びこれに係る地球環境保全への貢献を目的として、輸送体系を支えるリソースや制度の整備・改善、ならびに戦略的かつ総合的な視点から最適な物流・ロジスティクスシステム構築の計画設計、運用管理及び政策などに関する専門的な知識及び学力を身につけることができるよう、教育研究を行います。

（3）海洋基礎科学コース

基礎科学の確かな知識を礎として、地球及び海洋に関わる環境・災害・資源・エネルギー分野の諸課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指した教育研究を行います。

（4）海洋応用科学コース

工学に基礎を置き、海洋や船舶に関わる産業分野の発展に寄与する新たな学問分野の開拓と技術開発のために、材料工学、流体力学、熱工学、動力工学、電気電子工学、制御工学、情報工学、計算機科学などの専門的な知識及び学力を身につけることができるよう、教育研究を行います。

4. 博士課程前期課程 教育研究分野，研究内容等及び研究指導教員

2025 年 4 月 1 日（現在）

コース	教育研究分野	研究内容	研究指導教員
航海学コース	航海学	経済活動を停滞させない安定な海上輸送を地球規模で実現するために、科学技術的手法の創出によって、「船・ひと・環境・社会」連関システムの管理運営と船舶運航に関する技術革新を図り、海事分野の諸課題の解決に資する航海学分野の教育研究を行う。	齋藤 勝彦 教授○** 藤本 昌志 教授○ 廣野 康平 准教授 渕 真輝 准教授 本間 正信 准教授 前島 康光 准教授 牧野 秀成 准教授
海洋ガバナンスコース	ロジスティクス政策科学	国際物流・サプライチェーンの効果的運用と高度化，およびこれに係る地球環境保全への貢献を目的として，輸送体系を支えるリソースや制度の整備・改善，ならびに戦略的かつ総合的な視点から最適な物流・ロジスティクスシステム構築の計画設計，運用管理および政策などに関する教育研究を行う。	杉村 佳寿 教授○ 竹林 幹雄 教授○ 西村 悦子 教授○ 平田 燕奈 教授○ 秋田 直也 准教授 石黒 一彦 准教授○ 酒井 裕規 准教授 藤川 なつこ 准教授 本田 悠介 准教授
海洋基礎科学コース	地球環境科学	沿岸から全球スケールまでの物質循環・海洋生態系を含む海洋環境，大気・水環境，気候変動・自然災害，海洋資源・洋上風力資源などを対象として，地球科学及び環境科学の視点から，現代社会の地球及び海洋に関わる環境・災害・資源分野の諸課題の解決に資する教育研究を行う。	井尻 暁 教授○ 大澤 輝夫 教授○ ゴメスクリストファー 教授○ 堀江 好文 教授○ 三村 治夫 教授○* 山地 一代 教授○ 林 美鶴 准教授○ ブラッドックハヤシバージュ 准教授○ 岩田 高志 助 教
	環境・エネルギー科学	海洋・地球環境保全および脱炭素社会実現のために，分析化学，材料科学，放射線科学，レーザー・イオンビーム科学，極低温科学に基づき，環境汚染物質の分析・分離除去，海洋生分解性材料，海洋環境計測，次世代エネルギー，水素エネルギーなど，環境・エネルギー科学の応用に資する教育研究を行う。	蔵岡 孝治 教授○ 武田 実 教授○** 堀田 弘樹 教授○ 山内 知也 教授○** 金崎 真聡 准教授○ 谷池 晃 准教授○
	数物科学	海事海洋分野に関する自然現象や社会現象，実験等で観測される事象のメカニズムの解明及び社会問題を解決するために，数学・統計学・物理学の理論，数値計算，実験的解析など，海事科学の研究基盤をなす数学・物理学に関する教育研究を行う。	石井 克幸 教授○ 高坂 良史 教授○ 赤澤 輝彦 准教授○ 池野 なつ美 准教授 岩本 雄二 准教授○ 上田 好寛 准教授○ 貝野 友祐 助 教

出願前に必ず志望研究指導教員と相談してください。

研究指導教員欄の「○」は，博士課程後期課程の研究指導教員を示す。

「*」は 2026 年 3 月退職予定者を示す。

「**」は 2027 年 3 月退職予定者を示す。

コース	教育研究分野	研究内容	研究指導教員
海洋応用科学コース	船舶海洋動力工学	海事海洋分野の有効活用に資する新しい基盤技術を創造するため、材料工学、流体工学、熱工学などに基づき、船舶、海洋構造物、船用機関・システム、海中ロボットなどに関する様々な技術開発や応用技術の創出に資する教育研究を行う。	阿部 晃久 教授○ 勝井 辰博 教授○ 笹 健児 教授○ 宋 明良 教授○ 段 智久 教授○ 藤本 岳洋 教授○ 劉 秋生 教授○ 柴原 誠 准教授 高見 朋希 准教授 野村 昌孝 准教授 三輪 誠 准教授
	電気電子情報工学	海事海洋分野の有効活用に資する新しい基盤技術を創造するため、電気電子工学、制御工学、情報工学、計算機科学などに基づく、ロボット制御技術とパワーエレクトロニクス技術の開発、並びに情報通信技術と知能化技術の開発に関する教育研究を行う。	佐俣 博章 教授○ 長松 隆 教授○ 平山 勝敏 教授○ 堀口 知也 教授○ 若林 伸和 教授○ 沖本 天太 准教授 元井 直樹 准教授○ 森 亮太 准教授 山本 茂広 准教授○

出願前に必ず志望研究指導教員と相談してください。

研究指導教員欄の「○」は、博士課程後期課程の研究指導教員を示す。

コース	教育研究分野	研究内容	研究指導教員
☆	海洋環境計測科学	海洋現象とその物理過程を計測するための観測機器と解析処理手法の開発及びそれらを用いた海洋環境の分析と、海洋現象のメカニズム解明のための教育研究を行う。	井上 朝哉 客員教授 △ 植木 巖 客員教授 △ 荻野 慎也 客員教授 ○△ 金谷 有剛 客員教授 ○△ 渡邊 佳孝 客員准教授 △
☆	海洋底システム学	地球の表面の2/3に近い広大な領域を占める海洋底を対象とし、その科学的な理解および社会科学的な関心を深めることを念頭に、これに関連する諸問題の解決に資する教育研究活動を行う。	石橋 純一郎 教授 ○□ ** 中田 達也 准教授 □ 松野 哲男 准教授 □
☆	量子科学技術海洋応用	量子科学技術研究開発機構 QST の大型研究資産と国際共同研究ネットワークを活用し、最先端の量子科学技術を用いて海事海洋分野のイノベーションに資する教育研究活動を行う。	小平 聡 客員教授 ○△ 小西 輝昭 客員教授 ○△ 福田 祐仁 客員教授 ○△ 楠本 多聞 客員准教授 ○△

出願前に必ず志望研究指導教員と相談してください。

研究指導教員欄の「○」は、博士課程後期課程の研究指導教員を示す。

研究指導教員欄の「△」は、連携講座に所属する教員を示す。

研究指導教員欄の「□」は、協力講座に所属する教員を示す。

「**」は2027年3月退職予定者を示す。

☆連携講座及び協力講座に所属する教員を志望研究指導教員とする場合、所属するコースについては、当該教員と相談の上、承認を得て「航海学コース」、「海洋ガバナンスコース」、「海洋基礎科学コース」、「海洋応用科学コース」の4コースのいずれかを選択してください。